

黄肉桃栽培上紙袋の問題

黛 乙 郎

The Problem of the Use of the Paper-Bag in Yellow
Peach Growing

Itsuro Mayuzumi

1. In the cultivation of yellow peaches for canning, newspaper bags were formerly used to protect them from the damages by diseases and insects, but those bags were not good enough to keep off moths with proboscides which attack peaches in harvest time. I experimented with the chemical varnish for keeping off insects, and various kinds of kraft paper paraffin paper.
2. The peaches wrapped in newspaper bags with the varnish were least damaged.
3. The skin of the fruit wrapped in the newspaper-bag with the varnish was least sun burnt and looked nicest.
4. Those in paraffin-paper bags were quickest-ripening of all.

ま え が き

果実罐詰中最も一般消費者に親しまれ消費されていたパインナップルの産地台湾を失った吾国の現在としては密柑及び桃の罐詰が国内需要は勿論輸出罐詰としても最も大きく取上げられるべきものであるが密柑に於ては既に大量輸出の歴史を持ち、吾国産業として確たる基礎も出来ているが桃に於ては昭和二十七年度全国罐詰製造高は三十二万六千函、昭和二十八年度は二十七万四千函と誠に少い製造高で東洋の原産である桃をもっと大きな吾国産業として伸展させるべきだと考える。

吾国の桃罐詰の欠点は生食用水密系のもを罐詰原料として使用している事で肉質柔軟繊維粗雑でかかる原料では到底罐詰として優良なものを製造する事は出来ないにも拘らず加工に適した加工専用の品種の栽培が行はれない為で罐詰業者は止むを得ず生食用桃を使用する現状である。

加工に適した桃の品種を欧米諸国より導入栽培しても吾国気候風土に適せず経済的に栽培不可能の為で今日尙生食用水密桃に依存している訳であるが幸い農林省園芸試験場に於て改良された黄肉桃が桃の適地に於ては相当の反当収量を挙げ得られる事が立証されたので、かかる品種を適当に取入れて生産に移したら桃罐詰も健全な産業とされる段階となった。

視てそれでは罐詰用の黄肉桃の栽培に當て最も栽培者の苦しめられる害虫防除の問題であるが、黄肉桃は東洋原産の白肉桃に比較して熟期が一般に遅く七月下旬から九月上旬にかけて熟する為と黄肉桃は香気が高い為好んで害虫の襲来を受け、特に八月以後に発生する

あけびこのは (*adris tyrannus*) あかえぐりは (*Oraesia excabata*) もものめいが (*Dichocrocis*

punctiferalis) 等の吸収口を持った蛾類の夜間襲来を受けるもので、此等の蛾類は普通の紙袋を掛けたのでは袋の外部より口吻をつきさし果皮に針でさした様な小孔をあけ汁液を吸収するもので此の吸収孔は一つの実に数ヶ所にも及ぶものが普通である。その為に被害部の果肉は海綿状になり褐色に変わり表皮は凸凹になり虫の排泄物で汚され更に大抵は吸収口から病菌が侵入するので早く腐る。

此等の蛾類は大体中晩生桃が漸く熟しかける七月末から八月初めにかけてぼつぼつ現れ始め次第に其飛来数がふえて八月半ば頃最盛期に達し猛烈な吸収加害をしながら晩生桃の終る九月上旬まで発生飛来を続けるもので、従て此期間に熟する加工用黄肉桃品種を栽培するに当って最も悩まされる問題なので此等の害虫を如何にして防いだら良いか、それには袋掛けより外に良い方法がないので其紙袋の紙質及塗布材に就いて試験してみたので其結果を報告する。

試験方法

1. 試験に供した紙は

ハترون紙五十封度

ハترون紙六十封度

パラピン紙

新聞紙にフジクロール塗布

ハترون紙五十封度にフジクロール塗布

2. 紙袋の大きさは新聞紙全紙を八ツ切の大きさとし他の用紙も此と同じ大きさのものを作製して貼合せにはワラビ糊を使用した(但しパラピン紙はミシン縫のものを使用)

3. 塗布剤フジクロールは日本農業株式会社で発売のもので黒褐色の油状の液体にして水に不溶性比重0.9~1.0

主成分 工業用D.D.T 5%

其他の成分乾性油テレピン燈油95%

袋掛二ヶ月前に塗布し充分風乾したものを使用した

4. 試験に供した桃の品種は罐桃一号、二号、四号(五年生樹)

5. 袋掛は五月五日より五月十一日迄に行った

袋掛月日及袋掛数

品 種	月 日	袋 掛 数
罐 桃 一 号 の イ	5.8	A 125
		B 100
		C 80
		D 24

罐桃 一 号 の ロ	5.11	B 155 E 180
罐 桃 二 号	5.7	A 57 B 153 C 115 D 30
罐 桃 四 号	5.5	A 70 B 116 C 60 D 65

- A.....ハトロン紙六十封度
 B.....ハトロン紙五十封度
 C.....ハトロン紙五十封度フジクロール塗布
 D.....新聞紙にフジクロール塗布
 E.....パラピイン紙

試 験 結 果

七月九日より収穫を始め七月二十九日に収穫を終了した結果は次表の通り

罐桃一号（収穫始め七月九日収穫終り七月十六日）

袋の種類	袋掛数	収穫箇數	袋の破数	虫害果数	病害果数	全重量	収穫果中 病虫害果 の比率	袋掛数に対する 収穫果の比率
A	125	100	7	8	2	3貫640匁	10%	80%
B	100	79	50	15	0	3. 375	20%	79%
C	80	77	7	2	1	3. 590	4%	96%
D	24	18	1	0	0	845	0	75%

罐桃二号（収穫始め七月二十三日収穫終り七月二十九日）

袋の種類	袋掛数	収穫箇數	袋の破数	虫害果数	病害果数	全重量	収穫果中 病虫害果 の比率	袋掛数に対する 収穫果の比率
A	57	57	9	5	1	2貫630	10.5%	100%
B	153	149	30	21	3	6. 330	16%	97%
C	115	99	8	5	4	5. 010	10%	86%
D	30	25	3	0	0	1. 230	0	84%

罐桃四号（收穫始め七月二十三日收穫終り七月二十九日）

袋の種類	袋掛数	收穫筒数	袋の破数	虫害果数	病害果数	全重量	收穫果中 病虫害果 の比率	袋掛数に対する 收穫果の比率
A	70	56	12	5	1	實 2.720	10%	80%
B	116	103	30	13	2	4.860	14%	89%
C	60	48	7	1	2	2.800	6%	80%
D	65	64	9	0	3	3.425	4%	98%

罐桃一号の口（收穫始め七月九日收穫終り七月十六日）

袋の種類	袋掛数	收穫筒数	袋の破数	虫害果数	病害果数	全重量	收穫果中 病虫害果 の比率	袋掛数に対する 收穫果の比率
B	155	140	68	3	0	實 4.760	2%	90%
E	180	159	9	9	0	6.315	5%	88%

表中袋の破数とは收穫時に破れていたものの数にて、袋掛数と收穫筒数との差は自然落果又は風雨に依り袋共落果した為に生じたものなり。

收穫した際の果面の日焼の程度を觀察した結果は次表の通り

罐桃一号

袋の種類	日 程 焼 の 度
A	11%
B	55%
C	28%
D	0
E	89%

罐桃二号

袋の種類	日 程 焼 の 度
A	0
B	50%
C	63%
D	0

罐桃四号

袋の種類	日 程 焼 の 度
A	26%
B	36%
C	88%
D	0

果面に現れた日焼はパラピイン紙、ハترون紙の薄紙程甚だしく新聞紙にフジクロールを塗布したものは全然日焼を見止められなかった。

要 約

1. 袋掛後收穫までに風雨の為に破損し落果の原因ともなったものはハترون紙が最も多く且薄手のもの程雨に対して弱く塗布剤を使用しても余り効果は見られなかった。
2. ハترون紙の厚手のものは破損も少く結果は良いが袋掛けに際して束縛に困難にて亦束縛が不完全になり易く落果が多い。
3. 新聞紙其儘を使用する事は七月下旬から八月にかけて收穫する品種には長期間の為に收穫期に

破損或は穴が開き袋掛けの目的を果さぬが塗布剤を使用したものは十分に長期間保ち得た。

4. 收穫期に達するのはパラピイン紙が最も早く新聞紙が最も遅く其の差六日乃至七日間の早晚が見られた。
5. 日焼はパラピイン紙のものが最も甚だしく、ハترون紙に油引きのもの之に次ぎ新聞紙使用のものが最も日焼けは少なかった。